

21世紀型教育のモデル授業

「動物保護の絵本を創ろう！」

SSKは21世紀型教育に関して、2010年11月4日(木)に衆議院第二議員会館で「絶滅危惧種のモデル授業」を開催して以来、2011年2月15日(火)にやはり衆議院員会館で「永田町にフィンランドの先生がやってきた!!」、2012年4月21日(土) アメリカンスクール・イン・ジャパンで「ライフサイクル」のモデル授業を開催しました。そして今回はWWFジャパンに特別協力いただき、西町インターナショナルスクールの堀井先生に21世紀型教育のモデルカリキュラムを開発していただきました。SSKはこの教育カリキュラムを使って、「動物保護の絵本を創ろう！」という授業を開催しました。

1. 公開授業の詳細

1回目:

日時: 2013年4月27日(土) 13:30-16:30

場所: 西町インターナショナルスクール(麻布十番)

2回目

日時: 2013年6月13日(木) 16:30-17:30

場所: WWFジャパン



2. モデル授業の目的

一般の**小学校の授業に活用できる21世紀型教育のモデル**となるカリキュラムを開発し、これを実践する。想定した単元は下記になります。

- 東京書籍教科書 小学5年新しい国語
単元名「ふしぎな世界へ出かけよう」+「森林のおくりもの」
- 光村図書教科書 小学6年国語
単元名「物語を作ろう」+「森へ」
- 光村図書教科書 小学5年社会
単元名「森林とわたしたちの暮らし」+「森林の働きと地球温暖化の防止」

3. カリキュラムの特徴

先生が、21世紀型教育のひとつのモデルとしてこの授業を実施することで、他の教科や単元で応用できるようになってもらうことを狙っています。

- 学校の授業と家庭学習の連携を図り、学校の授業では、集団学習の特徴を生かした内容に絞る。家庭学習では、個人ベースでの調べ学習や資料作りを行う。この授業のために用意された**ブログ**を活用して、生徒同士や先生との意見交換や質疑を行う。学校での授業は、生徒同士の直接の意見交換や共同作業、発表などを中心に行う。



今回の授業で使用したブログ

- 先生はファシリテーターとして、授業の進行をマネジメントし、この授業の目的の達成に責任を持つ。

動物保護えほんプロジェクト2013 レッスンプラン 05			
教科	国語	トピック	動物保護
使用教科書	東京書籍教科書 小学5年新しい国語	レッスンタイトル	動物保護えほんプロジェクト
単元	「ふしぎな世界へ出かけよう」+「森林のおくりもの」	ファシリテーター	堀井清毅 / 桑原さとみ
対象学年	1～6年生	総授業時間数	15時間
実施日	2013年4月27日(土)	本時	9時開目～13時開目
授業の概略			
自然環境の悪化に伴い、生物の多様性がこれまでにない早さで一刻と失われつつあります。21世紀に生きる子供たちが出来ることは何か?この学びを通して、「絶滅危惧種」の保全を多くの人に伝えかけます。これまでの授業では、教師と生徒が【対話】を通して生徒自ら【問題提起】をしました。そしてICTを駆使した調べ学習を通して【情報活用】してきました。			
学習のめあて			
【情報活用】	・失われゆく生命について、ICTを活用し情報を調べる。 ・必要な情報を整理し、自分の考えに導く。	【ふりかえり】	・WWFゲストティーチャーの話を聞き、大事なことをメモする。 ・これまでに調べてきたことと、聞いた話(事

時限ごとのレッスンプラン

- 生徒の評価にはこの授業のために用意された「ルーブリック」を使い、ペーパーテストでは評価できない点をカバーする。

WWF動物保護「えほん」プロジェクト2013 ルーブリック
Rubric for WWF Picture Book Project 2013

評価項目:	5	3	1
事実に基づく情報	失われゆく生命について、事実に基づいた情報を明確に提示している。すべての事実を正確に報告し、読み手(小学生)に明白で重要な情報を提供している。	いくつかの事実の詳細が不明である。すべての事実を正確に与えられていない。小学生にとってわかりやすい情報が示されていない。	事実が全く提示されていない。または、ほとんどが不正確に提示される。小学生にはわからない情報が示されている。
文章構成	書かれた内容の中心になる考えが、詳細に示されている。話の順序や構成が、整っており、わかりやすい。また、話の中心となる考えが明確で、説得力がある。小学生が興味を持って読める構成になっている。	話の順序や構成があるものの、多くの描写の詳細が明確でない。	話の順序や構成が欠けている。描写の詳細も欠けているので、読み手がストーリーラインを追うことができない。

時限ごとのルーブリック

- ドラマティーツーリングを活用することで、子どもたちは市民や行政、企業、生き物のそれぞれの立場によって、異なる考え方や価値観を体験する。これにより多面的なもの見方と社会性を学ぶ。また、今回のテーマが動物保護のため、多様性(ジェンダー)の存在と大切さも実感する。
- ICT(情報通信技術)はあくまでも授業を効率良く進めるためのツールとして活用する。今回は、タブレットPC、プロジェクター、インターネット、ブログ、メールまたパワーポイントやプログラミングのできる生徒はスクークを活用した。従来の紙ベースの教科書や本、紙と鉛筆をベースとし、ICTは家庭学習での使用が多く、生徒や先生のレベルに沿うよう無理のない範囲で活用した。



保護者と資料作り
(家庭学習との連携)

- 生徒自らが課題意識を持ち、自ら調べ、色々な角度や立場で課題を考え、自らの意見をまとめ、それを絵本にして、発表する。



生徒たちが作った絵本

4. モデル授業の紹介

生徒: 西町インターナショナルスクールの生徒10名とSSKの生徒2名 合計12名

ファシリテーター: 西町インターナショナルスクール、SSKフェローの堀井清毅先生と
SSK講師の桑原里美先生

特別講師と審査員: WWFジャパン 広報室長 石原明子様、佐久間浩子様、住友ら様

総授業数: 西町インターナショナルスクール (1時間単位が基本) 15時間
SSK (2-3時間の連続授業が基本) 10時間



授業の様子



発表の様子



コンテストとして評価
受賞者と堀井先生

堀井先生の講評:

動物保護という子どもたちの生活から少し離れたトピックを取り上げ、自分たちに出来ることは何かを学んできました。この授業で私が注力してきたのは「対話」を生み出すことです。子どもたちは、ICTを活用し調べた情報を整理するために、友達、教師、保護者とじっくり話し合っていました。

今回は、教室にいる間はなるべくコンピューターに向かう時間を少なくし、話し合いや協働作業を行う時間を増やしました。こうすることで子どもたちは「えほん」を作る過程で得た情報を咀嚼し、動物に関する知識を深められました。ブログを利用することでオンライン上での協働作業も生まれ、家庭と学校の学習の連携ができたのも、「対話」の上に成り立つものなのだと思います。出来上がった作品を手にとった時の子どもたちの喜びの表情を見て、この単元の成功を実感しました。この単元は、国語や社会の教科書の単元に導入しやすいように工夫されています。より多くの教育機関で使用されることを心より願っております。

WWFジャパン 広報室 住友らさんの感想:

絵本を1ページめくるたびに、子どもたちの発想力と表現力に驚きながら、それぞれの作品を楽しませていただきました!

動物保護というとても難しいテーマながら、オリジナリティがあり且つ、内容も濃い作品が多かったです。正直、コンテストで1つの作品を選ぶのは非常に大変でした。

動物保護や環境保全を楽しみながら学び、子どもたちがイキイキと絵本という形で表現する姿を近くで見ていると、こちらまで子どもたちのころに戻ったような、ワクワクした気持ちにさせられます。

生徒の感想:

- S.Kさん : 今回のプロジェクトでは、いろいろな事を学びました。大きくなっても絶対に絶滅危惧種の動物と絶滅危惧種になりそうな動物を助けます。コンテストに勝てなかったのは、悲しかったのですが、楽しかったです。
- K.Aさん: 今回の動物保護の絵本プロジェクトで役立ったと思う部分は、どのようにして人間が自然界に影響をおよぼして動物達にもどんな影響が与えられているのかを調べて絵本に簡単にまとめ、他のみんなにも楽しく伝えることができたことだと思います。

保護者の感想:

- T.Kさん: 今回、動物保護絵本プロジェクトに参加させていただき、今までとは違った観点から、人間と動物の関係や生態などを深く考えるきっかけになりました。
もともと動物の好きな娘でしたが、今回の絶滅危惧をテーマに色々調べ、現実を知り悲しい思いをしたり何をどうしたらいいのか？子供なりに感じるものがあったように思います。
現在、生活は便利になりインターネットを使えばほとんどの情報を得ることが出来ます。
今後、子供たちが絵本づくりを通して、情報を得る立場から発信する立場に変わる良いきっかけになるのではないかと思います。ありがとうございました。
- N.Aさん: 子どもたちがインターネットを使い絶滅の危機にある動物のことを多角的方面から調べて知識を深められたことはとても有意義でした。また絵本という子どもらしい表現方法が誰でも読みやすく、絶滅危惧種をとりまく問題がストレートに伝わってきました。より多く人々に呼びかけられるようこのプロジェクトがますます広がって欲しいと思います。
- I.Mさん: 今回初めて、動物保護の絵本を子供達がつくりました。カラフルで個性溢れる絵を通し、動物達を守っていく為には「つながり」が大切であるということをとってもシンプルに表現されている物もありました。私達が生活していく上で少しでも意識するだけで環境が守られ動物保護につながるということを大人も改めて認識させられたように思います。
子ども達は、絵本を通すことによって「わたしにできることは何だろう？」と研究心が芽生えているようです。インド洋のモーリシャス島に生息していた飛べない鳥、ドーデーが絶滅したことでこの島独自の希少種の樹木が消えてしまったことや生物多様性、地球上の命がお互いにつながりあって、支え合っていることなど...。子供達は今後もつながりを考えて更に想いやメッセージを伝えてゆける絵本をつくっていただきたいです。動物保護プロジェクトはとてもよい企画であったと思います。ありがとうございました。
- M.Uさん: コンピューターツールを使って、ローカル／グローバルの垣根の無い 取組が行われている事に大きな可能性を感じています。

5. 今回の授業で使用したカリキュラムについて

制作・著作者: 堀井清毅 (SSK フェロー)

今回の授業で使用したコンテンツは、クリエイティブ・コモンズでのライセンスまたはパブリックドメインです。学校の授業やワークショップ等で活用してみたいとお考えの方やコンテンツの内容を詳しく知りたい方は、下記SSKのWebサイトをご参照ください。

SSKのWebサイト リンク集のページ

<http://www.supersciencekids.com/link.html>

主催:  特定非営利活動法人スーパーサイエンスキッズ
(<http://www.supersciencekids.com>)

特別協力:  WWFジャパン
(<http://www.wwf.or.jp/>)

後援: ACCJ